

発行所：川崎二郎後援会事務所  
鈴鹿市南玉垣町6813  
TEL：059-392-7170

# 豚へのワクチン投与を 豚コレラ対策 三重県知事が農水相に緊急要請書

8月1日（木）、鈴木英敏知事が豚コレラ対策の要望のために吉川農林水産大臣のもとに伺い、我々三重県選出の国会議員も同席いたしました。知事の説明に対し、大臣より「県と連携して、ありとあらゆることをやっていく」と力強いお言葉をいただきました。私からは、今回の件は昨年9月から発生しているにも関わらず、

国・県の官庁の対応が非常に遅く、その結果いなべ市で自衛隊員550名を動員し4,000頭も殺処分をせざるを得なかったことをお伝えいたしました。後追い後追いの政策となつてしまっており、業界の方々の不安が的中した結果となりました。この事実をしっかりと反省し、早期解決に努めて参ります。

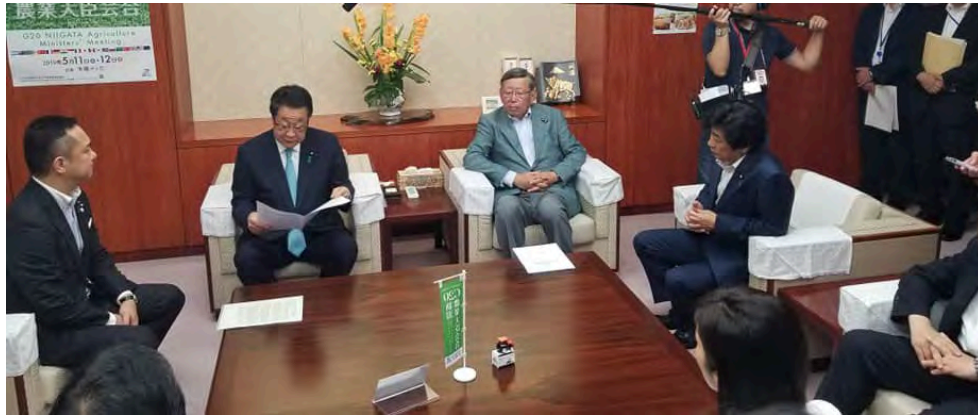
# 自民党東海ブロック両院議員会 「豚コレラ対策協議会」を開催

8月5日（月）に自民党東海ブロック両院議員会「豚コレラ対策協議会」を開催しました。農水省、総務省、関係自治体にも出席頂き、豚コレラ対策協議会として「豚コレラ対策に関する第一次緊急要請書」を取りまとめました。

そして会議終了後直ちに、自民党岸田政調会長へ要請し、早期に党本部へ豚コレラ対策本部の設置を求めました。党本部、各省庁と連携しつつ、引き続き豚コレラ対策の拡充へ働きかけを行ってまいります。

# 「鈴鹿ー津」 間で輸送時間 19分短縮 中勢バイパス の新工区開通 効果

三重河川国道事務所はこのほど、今年2月に開通した中勢バイパス鈴鹿ー津工区の交通状況や開通効果について、並行する国道23号の交通量が1割減少し、中勢バイパスに交通が転換したことで、物流事業者の輸送時間や通勤時間の短縮、生活道路の安全性向上などにつながったと発表しました。



【鈴木知事（左）から緊急要請書を受け取った吉川農水相＝農林水産省で】

家畜伝染病「豚コレラ」がいなべ市内の養豚場で発生したことを受け、鈴木英敏三重県知事は1日、農林水産省を訪れ、豚へのワクチン投与などを求める緊急要請書を吉川貴盛農水相に提出した。鈴木知事は「三重県では7月24日に農場で豚コレラが発生し、30日に防疫措置が完了した」と報告。「次の感染阻止については豚へのワクチン接種も含めて、ご尽力賜りたい」と要望した。吉川農水相は「豚コレラが昨年9月に発生して以来、なんとか阻止しようとしてきたが、残念なことに三重県でも発生した。養豚場の皆さんの経営を支援できるような善策を講じたい」と語った。要請書では「沈静化の兆しが見えず、県内の養豚農家や関係者からは、養豚業全体への影響を懸念する声が大きくなっている」と指摘。豚へのワクチン投与や野生動物の侵入防止対策への支援などを求めた。吉川農水相との面談には、自民党の川崎二郎、田村憲久三ツ矢憲生の三衆院議員と吉川有美参院議員が同行。県議会の中嶋年規議長も同席した。鈴木知事は面談後、報道陣の取材に「豚へのワクチン接種については地域限定にするか、県内に流通を制限することが必要になると説明があった。OIE（国際獣疫事務局）と話し合い、検討してもらっていることが分かった」と話した。県は今年2月以降、2回にわたって、農水省に豚へのワクチンの使用を検討するよう求めていた。7月に県内の養豚場で豚コレラが初めて確認されたことを受け、ワクチンの投与を鈴木知事が直接要望した。（8月2日発行 伊勢新聞より）



【岐阜県より野田聖子議員（左）、三重県より三ツ矢憲生議員（左）】

津市河芸町東千里で2万5400台（同12時間あたり）となり、開通前より約1割減少した。輸送時間は約19分短縮し、通勤時の抜け道利用車両が減少することで、生活道路の安全性が向上したという。（7月24日発行 伊勢新聞より）

選挙区の区割り変更に伴い鈴鹿に来てから、「中勢バイパスの開通が急務だ」と取り組んだ成果です。引き続き残る4工区についても全力で取り組みます。国道は国会議員、県道は県会議員、市道は市会議員の所掌範囲です。中勢バイパスは国道ですので、国会議員である私が責任を持って取り組みます。